令和5年度 東京都内湾水生生物調査 5月稚魚調査 速報

●実施状況

令和5年5月9日に稚魚調査を実施した。天気は晴で、気温は20.0~21.3℃、調査地点の風は 北東~東南東の東寄り、風速3.3~5.2mであった。調査当日は中潮で、満潮は6時00分、干潮は 13時11分であった(気象庁のデータ)。また、いずれの地点においても赤潮は発生していなかった。

全調査地点においてハゼ科が多く出現した。なかでもお台場海浜公園と葛西人工渚ではマハゼが非常に多く出現した。

水生生物調査実施中!

稚魚調査中は、写真ののぼりを掲げています。 見かけた方は、お気軽にお声がけください。





	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
作業時刻	10:09-11:24	11:55-13:18	14:25-15:56
水温(℃)	20.0	19.2	20.8
塩分(−)	23.0	12.0	9.0
透視度(cm)	36.5	38.5	32.0
DO(mg/L)	7.6	4.9	7.5
DO飽和度(%)	95.7	57.4	88.4
波浪(m)	0.1	0.2	0.1
pH(-)	7.9	7.6	7.7
水の臭気	無臭	無臭	弱下水臭
備考	調査日前日、前々日に東京で局地的に強い雨が降った。		

●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	お台場海浜公園	城南大橋	葛西人工渚
魚種 (多い順 ^注)	マハゼ(G)	ニクハゼ(m)	マハゼ(G)
	ビリンゴ(m)	ビリンゴ(m)	ウキゴリ属(m)
	ボラ(m)	ボラ(m)	エドハゼ(c)
	ウキゴリ属(+)	ヒメハゼ(c)	ボラ(c)
	スズキ(r)	ウキゴリ属(+)	ヒメハゼ(c)
魚類以外	エビジャコ属(+)	エビジャコ属(m)	エビジャコ属(m)
	タカノケフサイソガニ(r)	ニホンイサザアミ(m)	ニホンイサザアミ(c)
	シラタエビ(r)	メリタヨコエビ属(r)	ウミグモ綱(r)
備考	他にアシシロハゼ、チチブ等	他にアユ、スズキ、ミミズハゼ	他にオフェリアゴカイ科、ニッ
	が採集された。	属等が採集された。	ポンドロソコエビ、アキアミ等
			が採集された。

注)表中の()内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

お台場海浜公園 採取試料



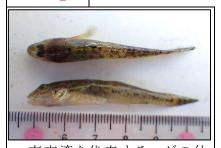




水際数 m で急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

マハゼ



東京湾を代表するハゼの仲間。河口域を中心に生息するが、河川淡水域に遡上することもある。春から秋にかけて干潟で成長し、冬になると産卵のため深場へ移動する。

ビリンゴ



マハゼと並ぶ東京湾を代表するハゼの仲間。淡水の影響を受ける干潟に多い。仔稚魚は早春に干潟に出現する。産卵は冬から早春にかけて、アナジャコ等の甲殻類の巣穴で行う。

ボラ



東京湾内湾に多く生息する。 春から夏にかけて稚魚は干潟で 過ごし、成長するにつれて、ハク →オボコ→イナ→ボラ→トドと呼 び名が変わる。干潟で見られるの はオボコまでのことが多い。また、 稚魚の体色は金属光沢が強い。

アシシロハゼ



内湾や河口域の水深 1m 前後の砂泥底に生息する。マハゼに似るが、本種の鱗は粗く、体側にゴマ模様がある。また、成熟した個体は体側に白い横縞が現れる。春に成魚は干潟に多く出現し、マハゼ稚魚等を捕食する。

チチブ属



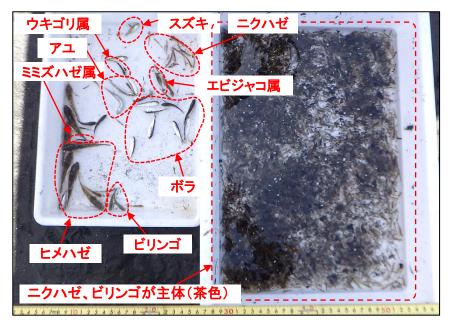
雑食性で、湾奥から外湾にかけての河口域や潟湖等に生息する。泥底から砂泥底にある転石やカキ殻の間等にみられる。戦後、水質悪化のため、一早く姿を消したと言われている。

エビジャコ属



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体のわりに獰猛で、魚類の稚魚等を捕食することが知られている。本調査では、抱卵している個体が採集された。

城南大橋 採取試料







城南大橋西詰めにある干潟。北側には東京港野鳥公園がある。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

ニクハゼ



東京湾に出現するハゼ科のうち、高塩分の環境を好む種。アマモやアオサが繁茂するやや静穏な海域でみられることが多い。体長 2cm 程になるまでは、体色が肉色をしており、その名の由来となっている。

ヒメハゼ



全長 9cm 程になる。内湾や干 潟域の砂底や砂泥底に生息す る。危険を察知すると砂に潜る習 性があり、体の模様も砂や砂利の 色にそっくりである。産卵期は 5 月から 9 月で、二枚貝の貝殻の 中に産卵する。

アユ



夏から秋にかけて河川中流の砂礫底に産卵し、孵化した仔魚は降海して干潟周辺で3~4cmになるまで滞在する。海で生活する間は体の透明感が強いが、今回採集されたのは体長4cm前後の遡上直前の個体で、銀色の鱗が形成されている。

スズキ



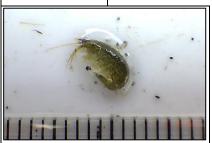
湾奥から外湾にかけて様々な場所でみられる。仔魚は沖での浮遊生活後に沿岸に向けて接岸回遊をする。内湾の干潟域や人工海浜でハゼ科の稚魚や甲殻類等を食べ、急速に成長する。

ミミズハゼ属



河川の下流域から海域の潮間 帯に生息し、礫や石の下に潜 み、ミミズのようににょろにょろと動 く。ゴカイ類やヨコエビ類を食べ ている。

メリタヨコエビ属



ョコエビ(端脚目)の仲間。体長は5~8mmで、体は横に扁平である。内湾や河口部などの汽水域の転石下に生息する。

葛西人工渚 採取試料







東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。

●主な出現種等 ※写真のスケール1目盛:1mm

マハゼ



※解説はお台場海浜公園を 参照。

ウキゴリ属



産卵期は冬から早春。アユと同じように仔稚魚は干潟で成長し、その後、河川を遡上する。河川中流から河口域で生活する。 干潟域でみられる稚魚にはウキゴリとスミウキゴリの 2 種が混じっていることが多い。

エドハゼ



湾奥の干潟域に生息する。口が大きく、その後端は目の後端を越える。主に小型甲殻類を捕食する。成長するとアナジャコの巣穴を隠れ家として利用するため、成長した個体は小型地曳網で採集されにくい。

アキアミ



名前にアミと付くがエビの仲間 (サクラエビ科)。内湾の河口付 近を群れで遊泳する。ガラスのよ うに透明で、尾節基部と触角が 赤い。この赤い触角から、新潟県 では「あかひげ」とも呼ばれる。

ニッポンドロソコエビ



体長 1~2cm 程になるヨコエビの仲間。砂底や砂泥底の表面近くにトンネルを掘って生活する。 東京湾では最も普通にみられる ヨコエビの一つ。

ウミグモ綱



クモに似た姿の節足動物。ウミグモの仲間にはアサリ等の二枚 貝に寄生する種がある。毒性はなく人間には寄生しないが、寄生された貝はやせ細り衰弱死することもある。成熟した個体は貝を出て自由生活を送る。